

縄文時代早期の東京湾岸における 環境と動植物資源利用

2023.
1.22. 日

参加：申込不要，参加無料 *なお，コロナ感染防止のため，参加者数上限を80名とすることをご承知おきください。
また，入構時に氏名・連絡先のご記入，検温・消毒についてご協力をお願いします。

時間 13:00～17:00

場所 明治大学駿河台キャンパス グローバルホール（グローバルフロント1F）

縄文時代の人々は単なる狩猟採集民ではなく，前期以降，植物資源は管理を行い，動物資源は獲得して利用していた。東京湾岸ではこの数年，縄文時代早期の発掘調査成果が公表され，前期以前の様相が解明されつつある。当シンポジウムでは，縄文海進にともなう東京湾岸の海況と陸域の変化やその間の人間活動を概観する。そして，そうした環境のもとでの動植物資源の利用を検討し，資源管理が確立した過程を検討する。

プログラム

- 13:00～13:05 「センター長挨拶」 石川日出志（明治大学黒耀石研究センター）
- 13:05～13:10 「趣旨説明」 能城修一（明治大学黒耀石研究センター）
- 13:10～13:40 「奥東京湾における縄文海進による海況変遷」
一木絵理（上高津貝塚ふるさと歴史の広場）
- 13:40～14:10 「縄文時代早期の東京湾周辺における人間活動」
蜂屋孝之（千葉県教育庁文化財課）
- 14:10～14:40 「縄文時代早期の貝類資源利用」 黒住耐二（千葉県立中央博物館）
- 14:40～14:50 休憩
- 14:50～15:20 「縄文時代早期の植物資源利用」 佐々木由香（金沢大学古代文明・文化資源学研究所）・能城修一（明治大学黒耀石研究センター）
- 15:20～15:50 「縄文時代早期以降の関東地方における植物資源管理と利用」
吉川昌伸（古代の森研究会）
- 15:50～16:00 休憩
- 16:00～17:00 パネルディスカッション（質疑応答）

